第16回「アグリフードEXPO東京」
～東京で4年ぶりに会場開催～

「アグリフードEXPO」は、全国の農林水産・食品事業者と国産農林水産物・食品の調達に意欲のあるバイヤーを繋ぎ、ビジネスマッチングの機会を提供する商談会です。全国から465先の農林水産・食品事業者が出展し、魅力ある農林水産物や地元産品を活用したこだわりの加工食品を、バイヤーへ積極的にPRしました。

今回新たに設置したのが、海外からも評価の高い国産酒類を集約した「グローカル酒類パビリオン」です。24先の酒類事業者が本パビリオン内に出展、日本酒・焼酎・クラフトビール・ウイスキー・リキュールなど地域性豊かな酒類を提案しました。また、輸出や物流などの専門機関が経営上の課題に対するアドバイスや支援メニューの紹介を実施する相談コーナーを設置し、出展者や来場者から253件の相談がおこなわれました。

開催初日には野中厚前農林水産副大臣が来場し、開会式に登壇するとともに、多くの出展ブースを視察、出展者を激励しました。

さらに、特別企画として輸出促進に関するセミナーを会場内で実施しました。開催初日には「輸出とインバウンド促進に関するトークセッション」を開催し、前半では輸出に積極的に取り組む梅乃宿酒造株式会社代表取締役の吉田佳代氏と、株式会社金沢大地代表取締役の井村辰二郎氏より講演をいただき、後半では日本食品海外プロモーションセンター（JFOOD O）執行役の北川浩伸氏、日本貿易振興機構（JETRO）農林水産食品部次長の西浦克氏、日本政府観光局（JNTO）企画総室長の平野達也氏を交えたパネルディスカッションがおこなわれました。また、開催2日目には「輸出支援プラットフォームによる講演」を開催し、農林水産省及び香港、タイ国、米国（ロサンゼルス、ニューヨーク）の各輸出支援プラットフォームの担当者が、各国・地域における日本食市場の動向や最新の現地情勢について説明しました。（情報企画部）

開会式のテープカットの様子

「グローカル酒類パビリオン」では試飲提供もおこない、多くの方が訪れました

開催概要

名　称▶第16回「アグリフードEXPO東京2023」
会　場▶東京ビッグサイト 東4ホール
日　時▶2023年8月23・24日
主　催▶株式会社日本政策金融公庫
運　営▶エグジビジョンテクノロジーズ株式会社

【出展者数】465先

【商談件数】21,884件
輸出に関する商談 1,633件

【来場者数】8,889人

出展者の声
- 多業種のバイヤーがいらしていた（農業/石川県）
- 手ごたえのある商談ができた（食品メーカー/長野県）
- 商品を知ってもらう場として最適（農業/福岡県）

来場者の声
- 試食なども多く、たいへん参考になった
- 地域の発展につながることを期待している

高松支店 地域農業と異業種を繋ぐ 東讃地域で交流会を実施

香川県東讃農業改良普及センターと東讃農業改良普及協議会が主催した「東讃地域の農業と異業種の交流会」に協賛。地域農業の魅力を取引拡大に繋げるべく、農業者と旅館業者、飲食店業者など異業種との交流を支援しました。

当日は54人が参加。会場に展示された自慢の農産物を手に取りながら、具体的かつ積極的な商談が進められました。参加者からは「フェイストゥフェイスの交流で商談のきっかけができた」「生産者の声を直接聴ける良い機会となった」などのコメントが寄せられました。（7月25日）

夏の暑さに負けない熱気が会場を包んでいました

東京支店 行政施策と支援事例から 農業経営のヒントを得る

農業経営アドバイザー東京連絡会を4年ぶりに開催しました。

一般社団法人東京都農業会議業務部長の松澤龍人氏が農地関係制度の仕組みと状況について、また、株式会社結アソシエイトの代表取締役で農業経営上級アドバイザーの松田恭子氏が、自身が手がけた農業者への支援事例について、それぞれ講演しました。

質疑応答では、東京都ならではの農地に関する課題や、都内農業者の輸出を含めた今後の経営展開などについての質問が出され、活発な議論が交わされました。（7月26日）

今回は42人が参加。支援事例の具体的な話に、質疑応答も熱を帯びました

盛岡支店 地域ブランドの販路拡大 シェフズミーティングで支援

JA江刺管内では「江刺金札米」「江刺りんご」「江刺牛」などの特色あるブランド農畜産物を生産していますが、販路拡大が課題です。そこで、日本プロ農業総合支援機構と連携し、都内の一流ホテルのシェフを招き、シェフズミーティングを開催しました。

シェフに生産現場を見学してもらい、「高級ホテルからみた江刺ブランドの魅力」についての意見交換と江刺ブランドの食材を使った調理デモを実施。参加者からは「バイヤーやシェフからの評価を今後の経営に役立てたい」との感想が寄せられました。（9月6日）

生産者やJA職員など60人が参加。食材を使う立場のシェフの声はモチベーション向上に繋がりました

さいたま支店 3県合同の研修会 先進事例や最新制度を学ぶ

栃木・群馬・埼玉の農業経営アドバイザー連絡協議会による合同研修会を開催。農業専門の税理士でアグリビジネス・ソリューションズ株式会社代表取締役の森剛一氏が「農業経営の事業承継と組織再編」と題した講演で、アグリビジネス投資育成株式会社の出資制度を活用した事業承継の事例などを紹介。その他にも、子実用トウモロコシの生産に取り組む農業者の発表などがありました。

参加者からは「もっと時間が長くても良かった」「他県の方と交流できてうれしかった」などの声がありました。（9月6日）

事務局の想定を上回る54人の農業経営アドバイザーが参加しました

夏1号を拝読しました。コロナ禍が明け、最近ではインバウンドの戻りという国内での外需獲得の話題が、新聞紙面などの多くを占めるようになりました。

しかしながら、本誌記事では農産物の生産者の方々が進めている輸出への取り組みと、そのご苦労を取り上げており、皆さまの努力に深く感銘を受けました。

近年、食料安全保障への懸念が、ウクライナ問題などでクローズアップされています。

私が勤めるエム・シーシー食品株式会社は、「食文化の創造」という壮大な経営理念を掲げて、2023年に創業100周年を迎えました。当社がおいしくて安心安全な長期保存調理食品を製造し続けること。それが、島国である日本が抱えている食糧安全保障への懸念を払しょくする一助につながると信じて、日々業務を推進しています。

足元では、デフレ脱却に伴う原材料高やコスト高に悩まされはしましたが、ようやく改善の道筋が見えてきました。

兵庫県神戸市内に構えた新しい工場では、「FSSC22000」という食の安全における最高位の認証取得に向けて準備に取り掛かり始めました。

我々調理食品製造会社も、農産物の生産者の皆さまと足並みをそろえて、数年以内に実現すべき夢の一つである製品輸出に挑戦したいと思います。

（エム・シーシー食品株式会社　角村 茂彦）

ご意見・ご感想をお寄せください

『AFCフォーラム』は農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気づきの点など、メール、FAX、電話、郵送で編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を進呈します。

メール anjoho@jfc.go.jp
※こちらのコードもお使いください
FAX 03-3270-2350
電話 03-3270-2268
郵送 〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
日本公庫農林水産事業本部情報企画部
AFCフォーラム編集部あて

編集後記

農地活用の方法は、地域の気候や風土、平地・中山間地などの圃場の立地や条件によってさまざまであるが、その根底には「地域の農地を守りたい」という農業者共通の思いがあるのだと感じた。経営である以上、収益性を考えるのは当然のことだが、この思いが農業の持続的な発展の原動力となると考えることは大袈裟ではないだろう。（細谷）

今後の農産物の安定輸入を見通しにくい現状で食料安全保障を考えた場合、どうしても主食用米は小麦・大豆の転作を念頭に置きがち。しかし確たる販路の見込みに基づく生産戦略があれば、主食用を中心とした「米」にこだわる経営が、「持続可能な農業」になりうると教えていただいた「ライスフィールド有限会社」。勉強させていただきました。（高雄）

稲刈り前の忙しい合間を縫って取材に応じてくださった株式会社アグリたきもとの海道社長。楽しんで農業に向き合う姿が印象的でした。地域の農地を守るために引き受けたブルーベリーなども、今では妹さん夫婦がスイーツを作ってカフェで提供しているとのこと。家族一丸となって取り組む姿が、多くの生産者の共感を得ているのだと思いました。（澤田）

青ミカンの外袋についていた二次元コードにアクセスしたところ、その生産地ではJAが中心になり、地域の耕作放棄地活用の取り組みを進めていました。農地活用の問題は、見えないところで私たちの食卓に影響を及ぼします。おいしくいただくだけではなく、時にはこうして産地に思いをはせ、目を向けていきたいと思いました。（竹中）

AFC Forum フォーラム 2023.10 秋1号

■編集
前川 紘輝　細谷 哲郎　高雄 和彦
大谷 香織　澤田 真理　鈴木 晃子
竹中 夕美

■編集協力
金子 弘道

■発行
株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ https://www.jfc.go.jp/

■印刷
株式会社第一印刷所 東京本部
〒110-0003
東京都台東区根岸2-14-18 第一根岸ビル